

関東鉄道グループにおけるSDGsの取り組みについて

当社グループは「地域のふれあいパートナー」として、鉄道・バス・不動産をはじめ、さまざまな分野で地域とともに持続的な成長の実現に向けて、SDGs（持続可能な開発目標）へ取り組んでおります。

SDGsが掲げる17の目標には、「安全（目標11）」「バリアフリー（目標11）」「環境（目標13）」といった当社グループに関わりの深い項目が含まれます。また、SDGsの「誰も取り残されない世界の実現」という強いメッセージは、関鉄グループ経営理念に通じるものがあります。

関鉄グループ経営理念

◇グループ経営理念

私たちは、地域社会の発展に貢献し、お客様から信頼され愛される企業を目指します。

◇グループ行動指針

【安全】私たちは、安全・安心を第一に行動します。

【接客】私たちは、あいさつを励行し、お客様の立場にたって行動します。

【成長】私たちは、絶えず自己革新し、新たな価値を創造します。

【企業倫理】私たちは、すべての人を大切にし、法令・規則を遵守します。

【環境】私たちは、自然環境に配慮し、行動します。

長期ビジョン「関鉄ビジョン2030」（2022年度～2030年度）とSDGsを符合させ、全社を挙げて推進してまいります。

以下、当社グループの取り組み概要を紹介いたします。

安全 公共交通機関の使命は「安全・安心・快適な輸送サービスの提供」です。SDGsにおいても安全は重要視されており、目標11において「公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、すべての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する」というターゲットが設定されています。

当社グループの実施する取り組みの一例として、「第4種踏切道の廃止(鉄道)」、「運輸安全マネジメント体制の徹底(鉄道・バス・タクシー)」、「貸切バス事業者安全性評価三ツ星獲得」などがあり、教育訓練によるヒューマンエラーの撲滅や、接客改善、日々の整備・点検、設備の改善に努め、重大事故ゼロを目指します。

また、自然災害への備えとして、線路脇の法面強化による防災の取り組みや、停電時に給電が可能なハイブリッドバス・EVバスの導入も行っており、災害に強い事業運営体制づくりにも努めています。





異常発生時の想定訓練（鉄道）

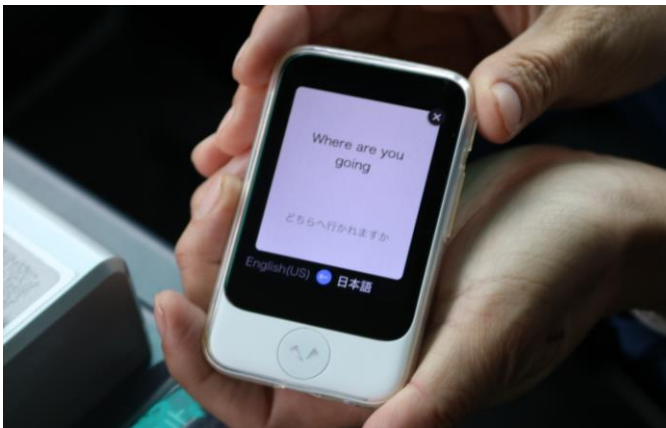


貸切バス事業者安全性評価認定制度三ツ星獲得
（関鉄観光バス 2019年度～）

サービス SDGsにおいても誰もが輸送システムにアクセスできる社会の実現に向けた取り組みが必要とされています。

当社グループではノンステップバスの導入をはじめとして、設備・施設のバリアフリー化を促進するとともに、外国人利用者への対応として、多言語でのアナウンス・案内表示や翻訳機を用いたご案内を実施し、言語や障害を気にせずにご利用いただける環境の整備を実施しています。

また、SNSを活用した広報活動を行い、当社グループの情報が誰でもアクセスできる環境を整えることで、より開かれた公共交通機関を目指しています。



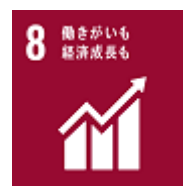
携帯翻訳機



車椅子リフト付き貸切バス車両（関鉄観光バス）

パートナーシップと持続的成長

地域のパートナーとして、持続可能なまちづくりの実現に向け、地域社会と一体となって活動を実施しています。鉄道事業・バス事業では、茨城県、市町村、その他協議会等と連携して地域からの要望に応じた各種輸送サービスの提供を目指してまいります。



観光客の市内周遊促進・中心市街地の活性化と持続可能な地域公共交通のあり方を検証するため、2020年度に土浦市、2021年度には龍ヶ崎市でMaaS（Mobility as a Service）の実証実験を行うなど、地域と当社グループが共に成長し続けることができるよう企業努力を行っています。

また、健康経営による従業員の健康管理と業務の効率化を実施し、健全な事業成長を目指してまいります。



MaaS実証実験（電動キックボード走行実験）



地域の小学校でバス乗り方教室を開催

環境

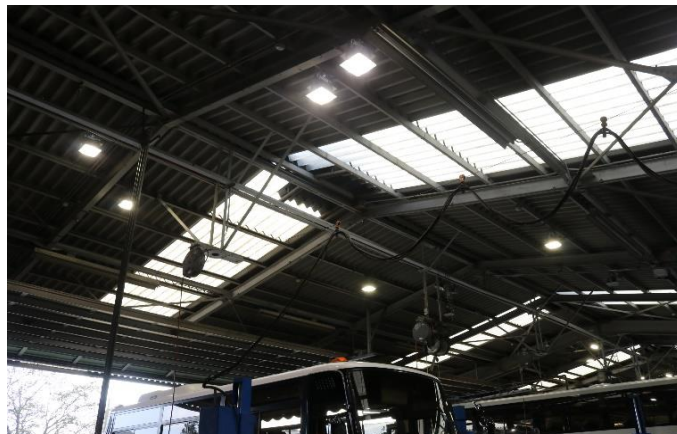
SDGsが近年急速に注目を集めている理由として、異常気象や気候変動による被害の深刻化が挙げられます。

環境問題に対応することは企業としての社会的使命であり、当社グループも力を入れて取り組んでいる課題です。当社グループではハイブリッドバス・ハイブリッドタクシー・EVバスなどの導入や施設のLED化によって、エネルギー効率の改善と二酸化炭素排出量の抑制に努めています。また、鉄道車両に「コモンレール式ディーゼルエンジン」を搭載し、排気ガスのクリーン化を進めています。

紙の使用量を削減するためにデジタル化を推進するとともに、備品の購入に関しても環境に配慮したグリーン購入法適合商品を積極的に選択しているほか、環境教育を定期的実施し、各従業員が環境問題に取り組む姿勢を学ぶことができる機会を創出しています。



ハイブリッドバス車両



施設のLED化

関東鉄道グループ SDGs 取組概要

■ 運輸業
 ■ 不動産業
 ■ 流通業
 ■ レジャー・サービス業
■ 自動車車両整備業
 ■ 共通

SDGsの ゴール	SDGsのターゲット	取組
 <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>	7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる	<ul style="list-style-type: none"> ■ 駅照明設備LED化・省エネエンジンの導入【鉄道事業】 ■ ハイブリッド車・EV（電気）バスの導入【バス・タクシー事業】
	8.2 高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する	8.9 2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	9.1 すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第4種踏切道の廃止／運輸安全マネジメント体制の徹底／沿線自治体等と連携した旅客需要の喚起【鉄道事業】 ■ 地域の要望や実態に即した輸送サービスの提供【バス事業】 ■ MaaSの実装 ■ 事業用地の高度利用
	11.2 2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子ども、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、すべての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する	11.3 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	11.6 2030年までに、大気、水及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 工場周辺の環境保全、産業廃棄物の適切な処理およびリサイクル部品の活用(関鉄自動車工業)
	11.a 各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する	11.a 各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	13.1 すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応力を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 法面（線路脇斜面）の補強【鉄道事業】 ■ ハイブリッド車・EV（電気）バスの導入【バス・タクシー事業】 ■ 計画的な建物修繕による自然災害に強い物件の増加
	17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する	17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する